

作品タイトル：「ぼうふざい」

作者名：平野 <sup>ひらの</sup> <sup>まさき</sup> 正喜

2020・11・18

梗概（あらすじ：400字）

宮内庁に努める理一<sup>りいち</sup>は先輩とのつきあいで買ったはずの宝くじを探しているが見つからない。理一の部屋に来ている幼馴染のセレナは「無くしたんだろ」と言うばかりで理一は腐ってしまうが、そこに訪れたもう一人の幼馴染のサヨに慰められてパチスロで気晴らしに向かう。しかし、2人を見送ったセレナはパチスロ店に電話で何かを依頼していた。その夜、理一から聞かされた「芝浜」について上司に電話報告したサヨは計画の実行日が近いことを知らされる。数日後、理一の24歳の誕生日の前日、部長から突然の辞令が内示され不審に思いながら自室に戻った理一を待っていたのは巫女姿で土下座するセレナとサヨだった。2人は理一に今までの非礼を詫び、理一が<sup>みかど</sup>帝を守護する福の神である<sup>たじょうかん</sup>太政官に就任すること、2人の任務は理一が福の神である故の異常な強運の対策であり、理一が腐ったり富に溺れるのを防止する「防腐剤」と「防富剤」であること、その任務の終わりと別れを告げる。